

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	宮崎 泰広	(****年**月**日)
本 籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(感覚矯正学)	
学位授与番号	乙第21号	
学位授与日付	平成26年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第4項該当	
論 文 題 目	失語症例の発話産生における音韻・意味情報の相互影響過程に関する研究	
審 査 委 員	教授 種村 純	教授 福田 章一郎
	教授 小坂 美鶴	顧問 國塩 勝三(倉敷リハビリテーション病院)

博士論文内容の要旨

本論文では言語性保続および新造語の出現に音韻と意味、両過程の障害が複合的に関与していることを明らかにした。次いで、伝導失語例における音韻的誤りの分析および音韻操作課題の成績から音韻辞書へのアクセスの障害と、非語を含む復唱や音読のいずれの課題でも音韻的誤りを示す。後者は辞書後の音韻処理の障害に関係している、と仮定された。さらに、音韻情報および意味情報による後続言語反応の促進、あるいは抑制の現象が検討され、呼称課題で同じ範疇の単語や語頭音が同じ単語が事前に与えられると、その後の語彙表出や保続が抑制された。

以上、失語症者の発話表出において音韻的情報と意味的情報が、それぞれに影響を与えていることが確認された。

博士論文審査結果の要旨

予備審査において、各章を論文全体の中で適切に位置づけ、明確な結論を示すよう求められた。この点について、音韻的、意味的な情報が発話表出に与える影響を分析する視点として、言語情報処理モデルの歴史的発展に関する章と各章の結果を言語処理過程の観点から統合する章が追加された。この両章に関連して、各種の情報処理モデル間の相違と申請者が依拠するモデルに関して質疑が行われ、審査員はこの両章の追加によって論文としての完成度が高まったと評価した。また、名詞と動詞の表出数に関する統計学的分析の章に関して、審査員から品詞の相違に関して、単に数量的な比較ではなく、統語論的観点からの基礎的考察が必要であることが指摘された。この点について、申請者はこの章を削除し、最終稿では名詞の発話に関するデータから、意味的情報と音韻的情報の影響を論ずることとしたことが説明され、審査委員はこの変更を承認した。